2025 年度 群馬パース大学 FD 活動報告書

本学は豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療職を育成することを目的として、国家資格を有する看護師・保健師・助産師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士を養成している。

2025 年度は、学生による授業アンケート回答率の向上、学生 FD 活動の継続、FD 研修会等、授業改善に向けた FD 活動を積極的に展開できた。

Ⅰ.学生による授業アンケート

全学科全履修者を対象に「授業項目」「担当教員」「自分自身」に関する質問項目について学生による授業アンケートを実施した。アンケート結果は、外部委託業者に依頼し、集計データより授業設計の段階からそのプロセスを振り返られるよう授業者にフィードバックした。

しかしながら、学生の授業アンケートの回答率は年々低下傾向にあることから、今年度後期より授業者（非常勤講師含む）が最終授業時に授業アンケート入力への協力を働きかけることを周知したものの、後期授業アンケートの全体回答率は 21.9%と前年度から 5%近く下降した。これについては打開策を模索する。また、授業者からの学生へのフィードバックも学内システムを通じて実施した。フィードバックの効果は次年度前期アンケートの回答率等を参考に検証することとした。

Ⅱ.学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは学科単位で実施している。学外実習では感染症対策を昨年とほぼ同様に行いつつ、従来通り病棟等で実習を行うことができた。実習指導改善に向けて「実習項目」「担当教員」「実習指導者」「自分自身」に関する質問項目について実施した。アンケート結果は各実習単位認定者にフィードバックした。

Ⅲ.ピアレビュー

本学では授業について授業者と参加者とで相互に知識や授業内容・授業方法を共有するピアレビューを実施している。今年度のピアレビュー実施率は昨年度よりも 10%近く上昇し、全体で 43.3%であった。今年度より、全教員がピアレビュー可能な授業科目について、学内システムを通じて授業者から情報公開し、授業者と参観者の交渉負担を減らした取り組みを実施したため、その効果が表れているものと推察している。引き続き、ピアレビュー推進のために相互に学びやすい体制づくりを進めていきたい。

Ⅳ.学生 FD 推進のための取り組み

昨年から引き続き学生 FD 推進のための学生と教職員話し合いの場を設け、意見交換を行った結果、学生 FD 活動を行う学生団体を設立することとなった。活動は次年度 4 月より開始することとし、学部 FD 委員会の予算の元、活動主体はあくまで学生が行い、定期的に FD 委員長らに対し、報告する機会を持つこととした。次年度の本格的な活動にむけ、規程や活動方針をさらに整備していきたい。

Ⅴ.FD 研修会

FD 研修会（9 月 3 日）では全教員を対象に西田 裕介 氏（国際医療福祉大学 総合教育センター センター長）による講演「専門職教育におけるカリキュラム設計と学修成果の統合」を実施した。

講義の組み立て方、重視すべきポイント、従来の暗記的な学習ではなく、アクティブラーニングに基づいた授業方針等を学ぶ機会となった。参加者からは「活用できる点が多く参考になった」等の感想が寄せられ、好評が得られた。

＜FD 研修会の様子＞





Ⅵ.ファーストレベル研修会

ファーストレベル FD 研修会（2 月 27 日）では、大学教育経験 5 年以内の教員を対象に、古田 玲子 氏（北里大学医療衛生学部 臨床細胞学、大学院医療系研究科 応用腫瘍病理学 教授）による講演「大学における教育改革の経験と専門職教育における理念の実践について」を実施した。

講演の内容は北里大学における授業をはじめとする教育方法の改革の歴史や、教員が心がけるべき理念と実践の事例についてお話いただき、参加者からは「授業を振り返り、課題を見出し具体的な改善点を見出す機会となった。」等、好評な感想が多々寄せられた。研修会の当日、学科によっては、実習指導等で参加が不可能な教員もみられたが、録画を聴取してもらうことで対象全教員の視聴が完了となった。

＜ファーストレベル研修会の様子＞





Ⅶ.FD ネットワーク“つばさ”令和 7 年度「週刊・授業改善リ レーエッセイ」への投稿について

本学が加盟している、大学・短大・高専における FD の立ち上げ・確立・発展を協同で行う「FD ネットワーク“つ ばさ”」に、医療技術学部放射線学科髙橋 哲彦 教授が授業改善に係るエッセイを投稿し、ホームページに掲載された。